がん遺伝子検査を導入

最も効果的な治療薬提案

北海道がんセンター

北海道がんセンター（札幌市）は14日、患者が抱えるがんの原因遺伝子を特定して一人ひとりに最も効果的な治療薬を提案する最先端検査「網羅的がん遺伝子解析」を7月から始めると発表した。全てのがん患者が対象で、現在通院中の病院から紹介された上で予約を受け付ける。北海道全域をカバーする専門医療機関として、道内のがん医療の高度化につなげる。

記者会見する北海道がんセンターの近藤啓史院長㊧と西原広史がんゲノム医療センター長（14日、札幌市）

がん遺伝子外来を開設し、火曜と木曜の午後にそれぞれ新患3人を受け付ける。検査期間は最短3週間。保険診療の対象外で、総額65万円の費用がかかる。北海道大学発祥の手法「クラーク検査」をもとに、検査工程の一部をジェネティックラボ（札幌市）や三菱スペース・ソフトウエア（東京・港）に委託する。

最適な治療薬が臨床試験中のものだった場合は臨床登録を支援し、保険適応外ならばチーム医療体制を組んで自費診療をサポートする。検査では約95％の確率で原因遺伝子を特定、約70％は効果的な薬を見つけることができるという。

網羅的がん遺伝子解析を提供するのは北海道大学病院と北斗病院（帯広市）に続き道内3例目。

許諾番号30056182 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2017年06月15日 日本経済新聞 地方経済面 北海道

(C)日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。